

令和 5 年 5 月 19 日現在

機関番号：32611

研究種目：挑戦的研究(開拓)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H05303・20K20324

研究課題名(和文)音楽ティーチングアーティスト養成コアカリキュラム開発のための音楽大学(学部)連携

研究課題名(英文) Collaborating with music colleges (faculties) to develop a core curriculum for training music teaching artists

研究代表者

久保田 慶一 (Kubota, Keiichi)

国立音楽大学・音楽学部・特別研究員

研究者番号：70170032

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本の主要な11の音楽大学(学部)の連携事業として、ティーチングアーティスト養成のためのコアカリキュラムを作成するための基礎研究を実施することにある。音楽のティーチングアーティストとは、聴衆に対して一方的に音楽を提供するだけでなく、双方向的なやりとり(教育的プログラム)を通して、双方向的演奏活動を行う演奏家である。音楽大学(学部)の卒業生は今後このような活動に従事することが多く、大学での教育が求められる。本研究においていくつかの大学において通常の授業科目として実施されるようになり、今後多くの音楽大学(学部)での実施が可能となる環境整備をすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ティーチングアーティストという概念は1980年代のアメリカに誕生したが、日本ではアウトリーチ活動の一環として、その方法が導入された。しかし大学の教育課程として学生たちにティーチングアーティストの理念や方法を学ぶ機会が与えられることがなかった。本研究ではアメリカから研究者や実践家を招聘あるいはオンライン講座を実施することで、多くの学生に教育の機会を提供し、大学の正規科目として実施する大学もあった。今後、音楽大学(学部)の卒業後の活動支援として、多くの大学で教育課程への導入が期待される。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to carry out basic research to create a core curriculum for training teaching artists as a collaborative project of 11 major music colleges (faculties) in Japan. A music teaching artist is a performer who not only provides music unilaterally to an audience, but also engages in interactive performance activities through interactive activities (educational programs). Many graduates of music colleges (faculties) will be engaged in such activities in the future, and university education is required. In this research, it came to be implemented as a regular class subject at several universities, and we were able to create an environment that will enable implementation at many music colleges (faculties) in the future.

研究分野：音楽学

キーワード：音楽教育 音楽家の社会貢献 音楽鑑賞教育

#### 1. 研究開始当初の背景

我が国の音楽大学(学部)における専門教育は、実技教育が中心となっており、学生たちが卒業後にどのような活動をするのか、あるいはどのような活動を通して生計を維持していくのかについて、在学中に考える機会是与えられていない。卒業後は経験的に、コンサートの運営やコンサートの実施を学んでいかななくてはならない。近年、アルトリーチ活動を実施する大学(学部)も増加しつつあるが、まだ十分とはいけない。

#### 2. 研究の目的

本研究では在学中に、コンサートの実施方法、とりわけ聴衆と演奏家が一体となって深い音楽体験を可能にする「双方向型コンサート」の実施を、在学中に体験的に学習する教育プログラムの開発を、我が国の主要な11の音楽大学(学部)の連携事業でもって、カリキュラム化の方法や課題を研究する。

#### 3. 研究の方法

「双方向型コンサート」を実施する方法として、アメリカで1980年代以降活発に活動している「ティーチングアーティスト」の方法を採用する。そのために、アメリカのティーチングアーティスト養成で主導的な役割をはたしている、トム・キャバニス氏とディヴィッド・ワレス氏を招へいし、我が国の主要な11の音楽大学(学部)で実施する。さらに各大学では関連授業科目で、ティーチングアーティストの養成プログラムを導入して、各大学(学部)において実施するうえでの課題や問題点を明らかにする。最終年度には、ブース氏をまじえた国際シンポジウムを開催し、実施した大学(学部)の実施報告を行い、さらに今後の発展のための討論を行う。

#### 4. 研究成果

初年度はコロナ・パンデミック以前であったので、まずトム・キャバニス氏を招へいし、参加大学でワークショップを実施し、多くの学生や教員が参加した。ティーチングアーティストの実践的方法のみならず、その活動がどのように社会貢献し、社会変革の担い手になっているのか学ぶことができた。2年度めでは研究担当者がアメリカの音楽大学を訪問し、大学教育におけるティーチングアーティストの実施状況を視察し、意見交換を行った。しかし当該年度の1月以降はコロナ・パンデミックにより、ディヴィッド・ワレス氏のワークショップの対面での実施は困難となり、オンラインで実施することにした。オンラインによって研究連携大学の多くの学生が広く参加することができたことはよかった。ワレス氏は現在の双方向型コンサートを積極的に実施しており、実践的な教育方法を学ぶことができた。3年度めもコロナ・パンデミックが終息していないことから、エリック・ブース氏が参加する国際シンポジウムもオンラインでの実施となった。しかしオンラインでの実施になったことから、ドイツやブラジルなど、海外から参加者も少なからずいた。今後の社会においてティーチングアーティストの活動が必要とされ、音楽大学(学部)での在学中での教育の必要性が確認された。

本研究は当初の研究期間は3年間であったが、コロナ・パンデミックによって2年間延長された。その延長期間も含めて、ふたつの音楽大学(学部)において、ティーチングアーティスト養成が授業科目として実施され、それら以外の大学においても社会貢献活動の一環として双方向型コンサートを学生たちが実施する機会が増加した。

今後は、ティーチングアーティストあるいは双方向型コンサートが日常的に実施されるようになるであろうし、そうした状況に対応するために、音楽大学(学部)の教育課程のなかに、ティーチングアーティストの養成プログラムがくみこまれる日も近いように思われる。



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大島路子	4. 巻 47
2. 論文標題 音楽大学におけるキャリア教育についての一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 桐朋学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 69-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田慶一	4. 巻 54
2. 論文標題 ティーチング・アーティスト養成のためのカリキュラム策定に向けての課題について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立音楽大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 311-315
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田慶一	4. 巻 54
2. 論文標題 ドーン・ベネット（編著）久保田慶一（編訳）「音大生のキャリア戦略」の翻訳・出版	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立音楽大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 301-305
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田慶一	4. 巻 54
2. 論文標題 ティーチング・アーティスト養成のためのカリキュラム策定に向けての課題について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立音楽大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 311-515
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田慶一	4. 巻 54
2. 論文標題 ドーン・ベネット(編著)久保田慶一(編訳)「音大生のキャリア戦略」の翻訳・出版	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立音楽大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 301-305
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大島路子	4. 巻 47
2. 論文標題 音楽大学におけるキャリア教育についての一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 桐朋学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 69-87
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 大類朋美
2. 発表標題 即興演奏を取り入れた新しいスタイルのクラシック演奏会の実施報告
3. 学会等名 日本音楽即興学会第13回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大類朋美
2. 発表標題 MUSIC CITY: 音楽によるまちづくりの方法Vol.2~音楽と教育~
3. 学会等名 第3回音楽文化創造フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大類朋美
2. 発表標題 即興演奏を取り入れた新しいスタイルのクラシック演奏会の実施報告
3. 学会等名 日本音楽即興学会第13回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大類朋美
2. 発表標題 MUSIC CITY：音楽によるまちづくりの方法Vol.2～音楽と教育～
3. 学会等名 第3回音楽文化創造フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大類朋美
2. 発表標題 クラシック演奏者にとっての即興演奏の学習
3. 学会等名 日本音楽即興学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 久保田慶一（翻訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ヤマハミュージックエンターテイメント	5. 総ページ数 302
3. 書名 音楽家を成長させる教える技術	

1. 著者名 久保田慶一（翻訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ヤマハミュージックエンターテイメント	5. 総ページ数 302
3. 書名 音楽家を成長させる教える技術	

1. 著者名 久保田慶一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水曜社	5. 総ページ数 178
3. 書名 新しい音楽鑑賞 知識から体験へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大島 路子 (大島路子)  (Oshima michiko)  (70764116)	桐朋学園大学・音楽学部・非常勤講師   (32662)	
研究分担者	大類 朋美  (Orui Tomomi)  (80587999)	国立音楽大学・音楽学部・非常勤講師   (32611)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------